

専門学校 ベルランド看護助産大学校 学校誌

奏

# Kanade

VOL.06  
2024



海外研修  
in Los Angeles

## 奏 第6号発刊に寄せて 新しい時代に即した人材育成

社会医療法人 生長会  
社会福祉法人 悠人会

理事長 亀山 雅男



新型コロナウイルス感染も昨年の5月には「5類」に移行し、アフターコロナに向けて新年の門出を迎えるはずが、元旦に発生した能登半島地震が様々な波紋を投げかけています。『ヒト』は天災の前に無力であり、救援隊も飛行機事故を起こしたり、寒波で当法人からのJMAT派遣も思った通りの救援が叶わない等を経験しました。こうした反省も踏まえ、より実際のBCPを構築していく必要があると痛感しています。ただただ、被災された方々が平常の生活に戻ることができるよう祈るばかりです。

さて、大学校に関して、コロナ感染の影響で今まで十分にできなかった学生の実習も本来のペースに戻ってきております。私たち生長会グループの教育施設である看護学校は、2018年4月から「ベルランド看護助産大学校」

に生まれ変わり、高度専門士を養成する4年間の看護教育とすることで実践力の高い学生を育成しようと考えています。まさに、医師の臨床研修制度がいくつかの改革を経て、現在のスーパーローテーション研修になったのと同じコンセプトであります。

こうして、一昨年の春には4年制大学校となってから初めての卒業生を輩出しましたし、“新カリキュラム”もスタートしています。特に、昨年はその中でも海外渡航が可能になったこともあり、希望者ではありますがアメリカへの短期研修が叶いました。“井の中の蛙にならず、広く大海を知る”ことは、国内で働くにしても広い視野と見識が身につくものと期待されます。自立・自律の精神をもって患者さんやご家族に寄り添った看護を提供し、安全・安心に満ちた質の高い医療介護を享受していただける環境を実現すると確信しています。

今後とも生長会・悠人会の各施設は「愛の医療と福祉の実現」をモットーに、地域の医療・福祉介護を支えつつ社会貢献してまいりたいと考えています。引き続き、関係者の方々の御支援を頂きますよう宜しくお願い致します。

JMAT (Japan Medical Association Team) = 日本医師会災害医療チーム  
BCP (Business Continuity Plan) = 事業継続計画

## 2023年度の 海外研修に同行して

専門学校 ベルランド看護助産大学校

学校長 戸田 爲久



本校では、高度専門看護学科開設以来海外研修を計画していたもののコロナ禍で延期となっておりましたが、やっと昨年8月末から9月初めにかけて3年生21名が念願叶って海外研修を実施できました。研修内容については、検討の結果英会話などの事前学習とアメリカ西海岸の医療施設等の見学、現地で活躍する日本人看護師の講義となりました。

見学した施設は、急性期病院であるCedars-Sinai Marina del Rey 病院、リハビリ施設のRancho Los Amigos National Rehabilitation Center、知的障がい者の自立支援施設Mychal's Learning Placeなどでした。

急性期病院では、ICUも含めて院内を案内していただき、看護師から自らの経験やキャリア、研究などについても聞くことができました。リハビリ施設では

最新のリハビリ機器やロボットなどを見学し患者移送などの機器の体験をしました。障がい者自立支援施設では障がい者とともにペアとなって食事をつくり、慣れない英語でコミュニケーションをとっていました。いずれの施設でも快く受け入れていただき、忙しい中見学や現場での質問にも応じていただきました。また、スタッフや患者さんも明るく声をかけて挨拶してくれました。日本人看護師からはアメリカの医療制度の実情や看護師のキャリアアップについて聞くことができました。

今回の海外研修で海外の施設を見学し、現地で活躍する日本人看護師の生の声を聞いたことは学生たちにとって良い経験になったと思います。普段の実習先とは違う世界をみることで学生たちは視野が広がり、看護師になることへのモチベーションを高めると共に看護師となった後のキャリアアップについても考える機会になったと考えます。

次年度以降、大学病院や大学看護学部での見学や看護学生との交流、シミュレーションなども含めて研修内容を検討していきたいと考えていますし、今後海外研修が本校の魅力の一つとなり、継続していく中で将来海外に羽ばたく卒業生もでてくるものと期待しています。



新型コロナの影響で延期されていた本校初めての海外研修が実施され、高度専門看護学科4回生21名が参加しました。研修前には、研修先の病院や施設の事前学習を経て、英会話学習、訪問先でのごあいさつを英語でスピーチするための準備など、学生が一丸となり準備を進めて海外研修に臨みました。



## DAY1 8月28日 出発！関空→LAへ

8月28日17時の便で、関西国際空港を出発。約12時間のフライトを経て、同日10時（日付変更線を超えました）ロサンゼルス国際空港に到着しました。天気は快晴で、有名なハリウッドでサインをバックに記念撮影をしました！（表紙参照）

夜はロサンゼルスのショッピングモールに行き、英会話で学んだスキルを活かして食事をオーダーしました。とにかくBigなハンバーガーに驚きでした！！明日からいよいよ医療機関を見学させていただきます。



## DAY2 8月29日

### Cedars-Sinai Marina del Rey Hospital

Cedars-Sinai Marina del Rey Hospital はBEST HOSPITALに選ばれた病院です。病床数は75床で、2026年に新病院の改築を進めているところに見学に行かせていただきました。

当日は、2グループに分かれて病室やICU等の病院内の見学と、働いている看護師さんのお話を聞き、質問もさせていただきました。

アメリカの医療保険制度の説明や、生活習慣病の患者さんが多い背景、患者さんの把握の工夫として、ベッドサイドのボードを活用して、多職種連携を図っている説明なども聞かせていただきました。最初の訪問先でもとても緊張していましたが、どのスタッフの方々も笑顔で「Hello」と手を振ってくださり緊張が和らぎ、学ぶ意欲がさらにUPして、質問もたくさんすることができました。



## 日本人看護師さんのセミナー

夕刻は、滞在先のホテルの研修室で、Torrance Memorial Medical CenterのDNP (Doctor of Nursing Practice) として勤務されている日本人看護師さんに『日本の医療と看護の未来：ナースプラクティショナーという選択肢』というテーマでお話をさせていただきました。

セミナーでお話しして下さった看護師さんは、日本で看護師のライセンスを取得し臨床で経験を積んだ後に、単身渡米されたそうです。最初は言語や文化の違いに悩みながらも、持ち前のバイタリティとポジティブ思考で人間関係が構築でき、理解を得ることができたと伺いました。

セミナーを受けて、人生の選択肢が広がり、私たちも人を魅了するような素敵な看護師になりたいと思いました。



## DAY2 学生VOICE

日本とは違って国民皆保険がないアメリカでは、お金で保険を買う必要があるため、本当に必要な医療を受けることができない人たちがいるのではないかと感じました。しかし、所得によって保険を選択することもできるため、受けられる医療の幅が広がるのではないかと考えました。また、医療費が高いからこそ国民は病にかからないように、自身の健康に気がついていると感じました。

事前学習で調べたことと、実際に病院を見学しアメリカで看護師として働いている方々に質問をしたり、アメリカの街並みを見にいたりしたことで、日本とアメリカの文化・医療の違いを改めて知識として深め、貴重な体験をすることができました。

# DAY3 8月30日 Mychal's Learning Place



Mychal's Learning Placeは、発達障害のある子どもや青年期の方々を支援する施設です。またバーカリー&カフェの運営も行っており、雇用機会の提供にもなっています。

こちらの施設で実施されているプログラムに参加させていただきました。

前半は利用者の方とグループになり、野菜サラダとラザニアを作りました。はじめは、お互いに緊張していましたが、共同で料理を作る中で、徐々に打ち解けて言葉の壁を越えて交流をもつことができました。

後半では、カラオケを披露しあったり、テイラースイフトの曲を流して一緒に踊ったりしました。私達が施設を後にする際には、一人ずつに手書きのメッセージカードを手渡ししてくれました。



## UCLAキャンパス訪問



University of California, Los Angeles (カリフォルニア大学ロサンゼルス校) にてカリフォルニアで有名なクマの銅像の前で記念写真！！

なぜUCLAにクマなのかは、皆さんぜひ調べてみてください。諸説あるようです…



# DAY4 8月31日 Rancho Los Amigos National Rehabilitation Center



Rancho Los Amigos National Rehabilitation Centerは、これまでの歴史として、人工呼吸器依存性ポリオ患者に必要な医療・看護・補助的ケアの提供を行い、ロサンゼルスで呼吸器疾患を伴うポリオ患者のケアを実施する唯一の場所でした。

現在では、理学・作業・言語・音楽・遊び・ピアメンタリングを取り入れたリハビリテーションを行っています。

アメリカでは、日本との食生活の違いから肥満の人・体格の大きい人が多く、看護師の腰痛が問題になっていると聞きました。そのため看護師の身体負担を軽減させるためにシーリングリフト・サヴィナ・エアパルという機械を使用し、移乗などを行っていました。

実際に、その機械に乗ってみると、体格の大きい方用のリフトだったので、リフトから落ちそうで怖かったです。しかし、看護師の負担は軽減されていると思いました。



## DAY4 学生VOICE

移乗などを行っている機械を体験させてもらい、患者の安全と看護師の負担軽減、効率化を図っているアメリカの医療に触れることができました。

日本には無い機械であるため安全に移乗できることに刺激を受けました。

# DAY5 9月1日 自由行動！異文化チャレンジ！



エンゼルスグッズを手に入れた～☺



あこがれの海外ディズニーを思いっきりエンジョイしました！



EnglishでOrderできました！



映画「フォレスト・ガンプ」がテーマのレストランへGO！



青空がめっちゃキレイで写真映え度100%\*



食料品店で買い物！品ぞろえに興味津々

# DAY6 9月2日

## LA→関空 日本へ帰国

9月2日15時にロサンゼルス国際空港を出発し、9月3日19時、関西国際空港へ到着しました。



## 海外研修を終えて 学生VOICE

私たちは、この6日間でアメリカの医療・福祉・保健活動を各病院や施設で働く方々から生の声を聴き、学ぶことができました。

また、今回の目標である異文化に触れ、英会話講座で学んだ英会話の楽しさや主体性も合わせて、今までよりスキルを上げられたと思います。

この知識とスキルを今後の看護実践に繋げていきたいと思います。

## 引率教員より

今回21名の学生と共にロサンゼルス研修に参加しました。参加した学生は、選択科目の1つである海外研修の受講を自ら選択した志の高い学生たちです。

16時間の時差を微塵も感じさせないほど、アクティブに研修では貪欲に学び、異文化交流ではバスやタクシーに乗り、ロサンゼルス市内の観光をしていました。普段の学生の姿よりとてもたくましくもあり、微笑ましくもありました。

今回の海外研修の目標である海外の看護教育および看護システムについて学び日本との違いを理解できる皆さんの機会を設けていただき、とてもうれしく思います。また異文化に触れ、グローバルな視点を養うことができ、今後、海外で活躍できる看護師になってくれることを心より願っております。

## 9月6日 学内報告会

各グループが、英語を交えながら学んだことや感想などを発表しました。

質疑応答の時間では、日本とアメリカの医療や福祉の違いについての質問が多くありました。亀山理事長をはじめ、法人の方からもご助言をいただきました。

また、より多くの学生に成果を報告するために、学校祭でも発表を行いました。





### 出産準備クラスを企画しよう！

学生たちは、講義の中で集団指導におけるアプローチや教育技術の基本について学び、自分の身近な地域ではどんな出産準備クラスが開催されているのか調べました。そして、社会の変化や妊産婦のニーズを踏まえ、自分たちが主催する出産準備クラスの目的・目標・テーマを考えました。

決定したテーマには、ママが産後も健康に過ごせ、赤ちゃんを家族の一員としてより大事に思い、ご夫婦が同じ気持ちで妊娠、出産、育児を迎えられるようにとの願いを込めました。

このクラスに参加されるご夫婦が、赤ちゃんに会える日を楽しみにしながら妊娠期を健康に過ごすためには何を伝えればよいか考え、『お母さんの体の変化と赤ちゃんの成長発達』『妊婦体験』『お産の経過と過ごし方』『呼吸法の実践』『パースプラン』の内容で企画しました。

ご夫婦に興味をもって参加していただくために、どんな方法で、どんな媒体を用いてどう伝えるかを、学生主体で試行錯誤しながら作り上げていきました。本格的に練習してみると上手くいかないことも多々あり、何度も修正と練習を繰り返し本番の日を迎えました。

### 2023年9月9日 出産準備クラス 「すくすく」開催！

当日は、高度専門看護学科の1年生と2年生の学生5名が、模擬妊婦とその夫として参加してくれました。終了後のアンケートでは「思っていたよりも日常生活での大変な動作が多く、工夫しないといけないことがたくさんあると分かった」「実際にお父さんの気持ちになって参加できた」「いろんな呼吸法があると分かった」「話の内容が分かりやすくて楽しく参加できた」との感想を書いてくれました。

高度専門看護学の学生が、実際の妊婦、夫になりきって参加してくれたので、出産準備クラスがよりリアルなものとなりました。

学生たちは、出産準備クラスの企画運営をとおして、物事を客観的に見る力、自分の考えを発信する力、人の意見を聴く力が必要であることを再認識していました。

そして、参加して下さるご夫婦にとってよりよい出産準備クラスにしようとして一致団結したことで、学生間のチーム力は一段と強くなりました。



テーマ  
“すくすく”  
-赤ちゃんの成長・発達と  
お産の流れを知ろう-

#### 赤ちゃんの成長発達



お腹の中の赤ちゃんは、今このくらいの大きさですよ抱っこしてみますか？



わあ〜かわいい結構重たい！



#### 妊婦体験



上を向いて寝るとしんどいね。



買い物の荷物を持って階段の上り下りをしてみましょう

#### お産の経過



みなさんがイメージするお産の順番にカードを並び替えてみましょう



お産の経過ってこんな感じかな？

#### 呼吸法



陣痛が来ました。フーフーフーフー陣痛がおさまってきました。深呼吸をしましょう



呼吸に合わせてさするといいだね！

#### パースプラン

どのようなお産にしたいかなどを書いておく、出産計画書をご夫婦で考えてみましょう

できるだけそばに付き添ってほしい(パパ)



おちついて呼吸法してリラックスできたらいいな(ママ)

# 4年ぶり！ 対面での体育祭 & 学校祭が開催されました

2023年4月28日

## 体育祭 in 大浜体育館・大アリーナ (大浜だいしんアリーナ)

体育祭は学生が中心となって活動をする自治会活動の一つで、各学年の体育祭委員が企画・運営を行います。

委員は4年生を中心に話し合いを重ね、種目・ルール・役割を決定しました。また、パンフレットを作成し、どの学生がどの種目に出場するのかをクラスで話し合いました。他学生への事前のオリエンテーションは勿論のこと、体育館の下見や使用の調整等も、学生が担当者と交渉し準備を行いました。

当日は、どの種目も応援と歓声でいっぱいでした。

綱引きでは、右綱に軍配があがるのか、はたまた左綱に軍配があがるのか…息をのみます。縄の中心が右に、左に移動するたびに学生・教員合わせて約350人の歓声が沸き上がります！そして、勝利を決めた瞬間の歓喜とどよめきはすごかったです。「こんなに本気を出して運動したのは久しぶり」という声もありました。

体育祭を通じて、同じ目標を持って個人が力を発揮することの意味を学び、自治会活動としての学生中心の活動が、各クラス・学年・学校全体のチームとしての仲間意識を強め、一致団結することができました。



右も左もオーエス！！



### 体育祭テーマ

### 2023年ベルリンピック

～勝負笑美戦勝  
勝っても負けて  
笑って美しく戦おう!!



応援も全力で！がんばれ～！



### 学校祭テーマ

マスクの下でも笑顔が  
あふれる学校祭!!!

キラキラ  
～ 喜楽喜楽～

2023年  
9月29・30日 学校祭



お祭り気分楽しんでもう！



本学では学生相互の親睦を図り、勉学向上を目指し、明るく規律ある学校生活を築くことを目的に自治会活動を行っています。中でも学校祭は全校生が協力し作り上げる行事であり、『多様な価値観を理解し人間関係を築く』ことや『チームの一員として連携、協働できる基礎的能力』の習得といったディプロマポリシーに基づくものでもあります。

テーマの通り、楽しみながらも感染予防を徹底する姿には、医療従事者になるものとしての自覚と責任を感じました。

今年は久しぶりに対面で開催しましたが、開催時のCovid-19の影響を考慮した結果、残念ながら外部の方を招待することはできませんでした。4年ぶりの対面開催のためすべてを新たに企画する必要がありましたが、全校生がそれぞれの力を発揮し素晴らしい学校祭となりました。

ブースの出展では看護実践力の向上につながるアカデミックな要素をふんだんに取り入れ、楽しみながら学び合う貴重な機会となりました。有志のダンスや歌のステージは、リハーサルの段階から演者、裏方がお互いのニーズを確認し合い、協働してよりよいものにとしようとする力を発揮していました。そして、海外研修に参加した3年生の発表は国際社会への関心を高め、看護の新たな知見を得るきっかけになりました。



高齢者体験+ヨーヨー釣りのコラボ！



国試クイズに挑戦中...



## BELL TOPICS

## ヘルスプロモーション実習1とは

ヘルスプロモーション看護の対象は、全てのライフサイクルにあり、また家庭や学校、職場、病院など様々な異なる機能をもつ地域の環境で生活する人です。

2023年度、2年生は「地域で暮らす人々の健康を維持するヘルスプロモーションについて考える力を養う」ことを目的として実習に取り組みました。

地域の様々な場所で生活する対象の健康と生活の実態を理解し、健康の増進・疾病予防のための支援がどのように行われているのかを学び、看護の役割とは何かを探求する5日間となりました。



## 実習フィールドで学んだこと

### こども園

(グリーンライフ保育園  
/ヘルセンター安井)

児の発達段階を学び、児の健やかな成長のために実践される安全衛生管理・健康管理をふまえた保育の実際を学びました。



### 保健センター

(堺市 西・南・北・中保健センター)

地域の特徴や地域住民の健康のニーズを知り、様々な職種や関連機関と連携しながら実践される地域住民の健康づくりの支援を学びました。



### 学校

(中学校・高等学校/短期大学)

各学校の保健室の機能および健康教育や生徒の健康課題への対応など、養護教諭が行う保健活動の実際を学びました。



### 地域包括支援センター

(堺市 中第3地域包括支援センター  
/阪南市尾崎・東島取地域包括支援センター)

地域の高齢者の介護予防のための取り組みや生活の困りごとに対する相談への対応を知り、高齢者が地域で暮らし続けるための支援を学びました。



### 企業

企業の労働環境や就労状況を知り、企業で働く人の健康課題のアセスメントや、健康を維持するために行われる看護の実際や必要性を学びました。

### 検診クリニック

(ヘルクリニック)

健診事業部と企業とが連携して実施する働く人への健康管理活動や、生活習慣病と共に生きる人に対する保健指導の実際を学びました。

2023年12月1日  
高度専門看護学科2年生  
宣誓式が行われました



10月中旬 準備開始!

宣誓式とは、これからさらに本格化する看護の道へ進んでいくことへの覚悟を決め『看護師になる自分』を自覚し、その使命や責任を「自身の決意」として表明する場です。

この宣誓式を通して得られたものが、自分の「なりたい看護師」に向けて進んでいく原動力となるようにと考え、準備をしてきました。

まずは、自分の「なりたい看護師」に向けて今の自分を見つめなおし、今後何を身につけるか・そのためにどう行動するかを整理しました。そして、自分の大切な人に向けての宣誓書を作成し、それをクラスみんなにむけて宣誓しました。

その想いをベースにして、学年全体で話し合いと練習を重ね、2年生が一丸となって宣誓式を創りあげていきました。コアメンバーとして学年の中心になってまとめあげた学生達の力も素晴らしかったです。校歌斉唱のピアノ伴奏も2年生の学生が買って出ってくれ、校内で練習する姿を何度も見かけました。伴奏者の熱心な姿にほかの学生たちが影響を受け、「歌う側もしっかり歌おう」という相乗効果が生まれました。

2年生総勢77名、学生全員から「意味のある式にしたい」と思っている気持ちが感じられ、結束力の強さに感銘を受けました。



宣誓式次第

- 開 式 の 辞
- 校 歌 斉 唱
- 宣 誓 の 儀
- 学 校 長 式 辞
- お 祝 い の ことば
- 花 束 贈 呈
- 閉 式 の 辞

2023年12月1日 本番当日

本番当日。実は…リハーサルではまだ心配要素が残る「宣誓の儀」でしたので、担当教員としては、内心かなりドキドキで本番を迎えました。本日の主役である2年生たちは、適度な緊張の中で本番を迎えているという印象でした。

さあ本番! 伴奏担当の学生が奏でるピアノ伴奏はもう完璧! 伴奏に負けじと校歌が斉唱されました。続けて「宣誓の儀」です。銘々が自分の思いを胸に抱き、ナイチンゲール像のろうそくから灯を受け継いでいました。そして、全員で誓いの言葉を宣言しました。それぞれの力強い思いがのった誓いの言葉にとても胸が熱くなり、身体が震え、背筋が伸びる思いでした。学生自身も、これからもみんなで頑張っていこうと強く思えるような「宣誓の儀」ができたと話していました。

この式典後も2年生は、何事にも前向きに、積極的に取り組んでいます。

そんな2年生をこれからもずっと応援し、それぞれの力を発揮できるように支援し続けていきます。



学生の声 ~宣誓式を終えて~

宣誓式を行うにあたり、今までの自分やなりたい看護師像について考えることができた。またその過程の中で、看護師になりたいという想いが強くなり、自分の気持ちの再確認をすることができて良かった。その気持ちをクラスの皆の前で言葉にして発表することは緊張したが、今まで一緒に頑張ってきた仲間の気持ちや目標を知ることができて共に頑張ろうという気持ちが芽生えた。宣誓書では、「受け持つ全ての対象が私の大切な人であると思えるくらい、1人1人の対象との関わりを大切に、その人のためにできることを常に考え行動できる看護師であれるよう努力する」ことを宣誓した。入学した当初よりも、授業や実習を通し具体的になった自分の気持ちの変化に気づき、驚いた。この今の気持ちを看護師になっても大事にしていきたいと思う。

また、宣誓の言葉の、「信頼できる仲間と互いに支え合い、自分を大切に、そして関わるすべての人へ感謝の気持ちを忘れません。1人1人に合った、ゆきとどく看護を提供するために、自分らしく、かつ決して驕らず、謙虚な姿勢で勉学に励みます。」という一節にもあったように、日々学習させていただいていること、また病院の実習に行かせていただいていることに感謝し、真面目に勉強に励んでいきたいと感じた。





# にこまるが行く！ サークル調査隊

## サークル LSA



### ◆どのようなサークル？

我々LSA (life support association) は自らの看護技術を高めつつ、その内容を学内の生徒や地域の方々に還元することができたらなと考え設立しました。

現時点では部員数は9名在籍しており、日々高めあい看護技術の習得を行っています。活動としては、BLS (一次救命処置) や止血法などのファーストエイドの演習や、ボランティアとして、救命大会に模擬患者として参加しています。



### ◆2023年度の活動を教えて！

12月2日に千里メディカルラリーという実際に医療に従事する方々の技術大会に模擬患者として参加しました。

千里メディカルラリーを通じて、実際の看護技術や医療技術を目の前で体験することができました。

今回の経験から、将来、医療に従事し人の命を預かるという責任感を感じることができました。今後に繋がる貴重な体験をさせていただくことができました。



### ◆みんなへひとこと！

我々は、様々な活動を積極的に行い、幅広い看護技術の視点を身につけ、看護学生という立場ではあるものの、自分のできることを還元していきたいと考えています。

そのためにも、日々の技術の向上や知識の習得を怠らず、部員が一丸となり活動していきたいと思えます。今後も我々の活動を応援してくださいと幸いです。

高度専門看護学科6年生  
LSAサークル 部長/副部長

◀サークルTシャツを作りました！

### 講師会での講演会 報告

## 「社会の変化と これからの教育 ～主体性と当事者意識～」

元横浜創英中学・高等学校長 工藤勇一先生



講師会では各学科の学事報告と講演会を行っています。

2023度の講演会は、当時、横浜創英中学・高等学校長の工藤勇一先生にご依頼させていただきました。

工藤先生は、山形県や東京都の公立中学校の教員や新宿区教育委員会教育指導長などを経て、2014年～2020年3月まで千代田区麹町中学校の校長を務められました。そこでの様々な改革はメディア等でも話題となり、横浜創英中学・高等学校長として学校教育改革に取り組みされました。現在は、私立学校や自治体などを通じた全国での教育アドバイザーや、内閣府でのお務めなど、多岐にわたりご活躍されています。

急激に変化していく社会の中で育てる人材像も変化しており、その中で教育はどうあるべきか、多くの教育の問題である「手段の目的化」によって失われてしまう“自立する力”を育てる方法、先生ご自身が実践されてきた学校教育改革の実際やポイントなどをご講演いただきました。

どの内容もとても興味深く、教育のあり方や学生との関わりについて考える機会となりました。また、講師会に参加して下さった講師の先生方や臨床指導者の方々にも大変好評で、多くの感想を寄せていただきました。様々な気づきを得ることができた有意義な時間をありがとうございました。

### 参加者アンケートに寄せられた感想 (一部抜粋)

- ・社会が変化している中で学校が変わるように、病院も変化していく必要があるのではないかと思います。
- ・教育について新たな発想、考え方ができ、今後に生かしていきたいと思えます。
- ・とても興味深い講義でした。多様性を考慮した教育を考えていきたいです。
- ・よく研修で学ぶ心理的安全性の関わりは主体性を持った人材を育成するのに大切であると学びました。
- ・教育や学生と関わる中で、自身を見直し今後の指導に活かしていきたいと思えます。
- ・工藤先生の著書を拝読し、一度ご講演を聴きたいと思っていたところでした。日本の教育そのものが主体性を奪うものになっているため、それをどう取り戻していくか(リハビリ)から始まるという言葉が印象的でした。
- ・日頃の自己を振り返る機会になりました。自己の行動変容が必要だということがよくわかりました。

# ボランティア 活動報告

本校の教育理念『地域を基盤として…』や新カリキュラムの考え方『ヘルスプロモーション』をもとに日々教育に取り組んでいます。

2023年度は地域活動の強化の一環として、ボランティアへの積極的参加を目指しました。ボランティアに参加した学生が、参加後の思いを寄せてくれました。

健康フェアのボランティアを行ったきっかけは、健康フェアに興味があったことと、実際に病院で働く看護師さん方の姿を近くで見たいと思ったからです。

看護師さんが笑顔で話し、その人と向き合うことで、はじめは話そうとしていなかった利用者さんが最後には楽しそうに話している姿が印象的でした。

ボランティア活動を行い、様々な年代の人と関わることができ、多くの学びや発見がありました。とてもいい経験になったと思うので、これからも積極的にボランティアに参加したいと思います。

私は高校生の頃部活をしていた為、中々ボランティア活動に参加する機会がありませんでした。ボランティア活動への興味は高校生の頃からあり、看護師を目指す上で人との繋がりやコミュニケーション能力が大切だと感じ積極的に参加しています。

ボランティア活動で得た事は、今後のボランティア活動や実習で活かしていきたいと考えています。

私がボランティアに参加した理由は、看護の対象に含まれる地域に住む方々と交流したいと考えていたからです。

日本看護協会は、看護の対象を「あらゆる年代の個人、家族、集団、地域社会」であると定義しています。

私自身、幼いころは自治会の子供会に参加していたため、地域の方と交流する機会がありました。しかし、小学校を卒業してから、地域の方との関わりはほとんどなくなってしまいました。そのため、ボランティアに参加することで、地域の方々と交流する機会になるのではと考えました。

ボランティアに参加して感じたことは、小さな活動が健康維持の第一歩になるのだなということです。

私が参加したボランティアでは、地域の住民が集まり、体調の変化の有無の確認や、ウォーキングを行うというものです。看護師や理学療法士も参加していたため、健康相談も出来ました。

その活動に、地域で生活している方が参加することで、社会参加の促進や運動不足の解消、孤独感の解消など、人々が抱えやすい健康問題に対処していたと感じました。

私が実習などで関わる対象は、病院で治療を受けている時期にある方がほとんどです。対象は治療が終わると地域に帰りますが、その後どのような生活があるのか、どのようなことが健康状態を崩す要因になるのか、といった所まで知ることは難しいです。

今回ボランティアに参加することにより、地域での生活の実際を知ることができたと感じます。また、地域で生活している対象と関わることにより、ヘルスプロモーションの一次予防、二次予防の実際に触れることが出来たのではないかと感じます。

私は施設内で行われた夏祭りのボランティアに参加させていただきました。

ボランティアではスーパーボールすくい等のゲームがあるスペースのお手伝いをさせていただきました。最初は何をすればいいのか分かりませんでしたが、実際はたくさんの人達と交流でき、とても楽しかったです。職員の方々と利用者さん達が和気あいあいと話しておられたのがとても印象的でした。

ボランティアに参加し、いい経験が積めました。

夏休みは普段の学校の授業では行うことがない活動を試してみたいと思っていました。

ボランティア先では高齢者の方から子どもまで様々な年代の方と関わらせてもらいました。特に高齢の方と多く話をしました。普段は高齢の方と関わる機会は少ないので、どうしたら説明が伝わるのか、など様々なことを考え、実践することができました。初めのほうは緊張していましたが、イベントに参加してくれた人が優しく笑いかけてくれたり、話しかけてくれたりしてすごく楽しく活動することができました。

このボランティア活動で看護師さんの姿をみて、視野を広く持つことの重要性を実感することができました。この経験を活かして普段から視野を広く持ち、周りで困っている人がいたらすぐに手を差し伸べられる人になりたいと思いました。

# 2023年度「学生によるオレンジリボン運動」実施

この数年、学校祭がオンライン開催だったこともあり、助産学科学生が「オレンジリボン運動」を実施するのは、3年ぶりとなりました。

学校祭当日は、オレンジリボン運動の概要と活動内容、児童虐待の現状についてポスターを展示し、説明を行いました。また参加者の方々に「私達にできること」をオレンジの付箋に書いて貼ってもらい、ポスターとして掲示しました。そして、参加してくれた高度専門看護学科の学生と教員88名に、学生手作りのオレンジリボンバッジを配布しました。

たくさんの人に児童虐待の現状やオレンジリボン運動について知ってもらえ、「私達にできること」の温かいメッセージを頂くことができました。

学生は授業の中でも、児童虐待の現状や対策、自分たちができる支援について学習しているので、活動にも興味をもって取り組んでいました。

今回の活動を通して、助産師としてすべきことなどについて改めて深く考えることができ、児童虐待に対する意識もさらに強くなりました。



オレンジリボン運動とは…

「子ども虐待防止のシンボルマークとしてオレンジリボンを広めることで、子ども虐待をなくすことを呼びかける市民運動」です。シンボルマークのオレンジ色は、“子どもたちの明るい未来”を表す色とされています。

引用・参考-----

こども虐待防止 オレンジリボン運動 <https://www.orangeribbon.jp/>  
(2023/11/22アクセス)

## 🍞 パン屋さんの出張販売 🍞

本校のご近所にあるパン屋「boulangerie SONA」さんが、水曜日と金曜日のお昼休みにパンの出張販売に来てくれています。

店名の「SONA」は、アイルランド語で“幸運・幸せ”という意味。すべての商品に、国産小麦・卵・バターを使用するなど、品質にもこだわられています。

「アップルデニッシュ」や「メロンパン」、  
「チーズフォンデュ」が学生に人気のパンとのこと！



**boulangerie SONA**  
〒599-8245  
堺市中区辻之  
1189-272  
Instagram  
@boulangerie\_sona



学校誌編集委員が選んだ  
おすすめパン！

### ショコラクランチ

バターの香り豊かなデニッシュ生地に包まれているのは、大きめアーモンドクランチチョコ！ザクザク食感が楽しめます🍴

### チーズフォンデュ

モチモチ生地のチーズパンにチーズクリームをたっぷりのせた、チーズ好きにうれしい一品。ピリリとした黒コショウが良いアクセントになっています！

## 編集後記

今号では、初めての海外研修を特集しました。高度専門看護学科設立当初から予定していたにも関わらず、新型コロナウイルスの影響で中止が続いていたため、4年越しの実現となりました。参加した学生たちには、この貴重な体験をこれからのキャリアに活かしてもらえたらと思います。

また、2022年4月の入学生から適用となっている新カリキュラムは、この4月から3年目を迎えます。高度専門看護学科では本格的にヘルスプロモーション実習が始まり、ヘルスプロモーションの視点で看護できる基礎的能力を養っていきたく考えています。

今後とも本校の教育にご理解ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。  
(学校誌委員)

ベルランド看護助産大学校 学校誌 奏

# Kanade VOL.06

2024年3月発行

編集:ベルランド看護助産大学校学校誌編集委員会

発行:専門学校 ベルランド看護助産大学校

〒599-8247 堺市中区東山500-3

TEL:072-234-2004

※学年の表記は、すべて2023年度のものです